

開発者インタビュー ユニバーサルデザインマップ

音声ガイド搭載編

誰もが暮らしやすい 街づくりを目指して



NTTコムウェアは、2016年11月17日、地図アプリケーションであるユニバーサルデザインマップに、音声ガイド機能を搭載し、日本電信電話株式会社が提供する「ジャパンウォーク・ガイド」向けにリリースしました（NTTグループは、ユニバーサルデザイン社会×ICTの実現に向けて取り組んでいます）。ユニバーサルデザインマップとは、外国人や障がい者の方々が必要とする情報を地図上に表示、投稿するサービスで、施設情報を利用者自身が登録でき、街づくりへの意識、関心を高めるものです。

ビジネスインキュベーション部 サービスインキュベーション部門 スペシャリストの菊島宏明、山下隆、鳴戸章介が、音声ガイド搭載の概要、背景について語ります。

街を歩く利用者の周辺にあるユニバーサル施設情報をプッシュ型で案内



山下 隆
NTTコムウェア株式会社
ビジネスインキュベーション部
サービスインキュベーション部門
スペシャリスト

— ユニバーサルデザインマップに、新たに搭載された音声ガイド機能とはどのようなものですか？

山下：音声ガイドとは、音声を用いてプッシュ型で情報を通知する機能です。地図の位置情報と連動し、近くにある設備の情報などを案内します。

菊島：地図で音声というと、多くの方は目的地までの道案内をするナビゲーション機能をイメージすると思います。しかしユニバーサルデザインマップの音声ガイドは、ナビゲーション機能ではありません。近くにあるユニバーサル設備の情報を、利用者に教えてくれる機能です。

山下：ユニバーサルデザインマップは、スマートフォン用のネイティブアプリではありません。Webアプリケーションなので、端末にわざわざインストールしなくても、スマートフォンやタブレットなどでWebページにアクセスするだけで利用できるという使いやすさが特長です。

— どのような情報が音声で通知されるのですか？

山下：ユニバーサルデザインマップを開いて街の中を歩くと、近くにあるユニバーサル設備、例えば障がい者向けのトイレ、スロープのある坂道などを、自動的に案内します。

菊島：目が不自由な方は、地図にどのような情報が掲載されているのか、今いるところの近隣にどのような設備があるのかわかりません。そこで、道を進んでいくと自動的に音声で、「どのような設備が、どちらの方向に、何m先にある」といった情報を教える機能を搭載しました。現在、通知するのは、街の魅力やユニバーサル設備に関する情報ですが、店舗や観光スポットなどをガイドすることも可能です。



※アプリケーションの画面は開発中のものであり、実際の画面は変更になる可能性があります。

視覚障がい者による地図の利用促進を目指した新しいチャレンジ



菊島 宏明
NTTコムウェア株式会社
ビジネスインキュベーション部
サービスインキュベーション部門
スペシャリスト

— 音声ガイドを搭載した経緯、背景を聞かせてください。

菊島:視覚障がい者の方から「このガイドを使いたい」というお話をいただいたことがきっかけであり、なんとかしたいと検討を始めました。

山下:多くの健常者は、「目の不自由な方は、地図が見えない。そもそもスマートフォンそのものが、使えないのではないか」と思い込んでいます。

ところが実際には、目が不自由でもスマートフォンを肌身離さず活用している方は少なくありません。健常者は目で画面を見て、指で操作していますが、同じことを視覚障がい者の方は音声と指を駆使して行っているのです。それを知って私たちも大変驚きました。日常生活のなかにスマートフォンが浸透しているのだと。

そこで、視覚障がい者の方に地図をもっと活用していただけるようにと、私たちも新しいチャレンジをいたしました。その取り組みが形になったのが音声ガイド機能です。



鳴戸 章介
NTTコムウェア株式会社
ビジネスインキュベーション部
サービスインキュベーション部門

菊島:音声ガイド機能は健常者にも役に立つものと考えています。「歩きスマホ」のリスクが注意喚起されているように、歩きながらスマートフォンの画面を見たり操作したりするのは危険を伴います。しかし音声ガイド機能があれば、歩きながらでも安全にスマートフォンを活用できます。

鳴戸:もともとNTTコムウェアでは音声への取り組みに注力していました。ユニバーサルデザインマップの前に、「ひと街メッセージ」という地図を使ったソリューションを開発していました。これはユニバーサルデザインマップと同様に利用者が地図上に情報を入力したり写真を投稿できるものです。特徴的なのは、スマートフォンやタブレットだけでなく、フィーチャーフォンでも利用できることです。しかも、フィーチャーフォンに話すという操作で情報を登録する機能も搭載していました。

スマートフォンにダウンロードしてインストールして使うアプリと違って、Webアプリで音声ガイドのような機能を搭載するのは容易ではありませんが、音声ガイド機能の実現にはこういった音声に関する技術の蓄積が生きています。

まずはiPhoneのVoiceOverへの対応を実現。そしてその先を目指して

— 今後も音声機能を強化していく計画はあるのですか？

山下:はい。今回のリリースは、アクセシビリティの機能に注力しました。iPhoneなどのiOS端末には、画面上の情報を読み上げ、操作するVoiceOver機能が搭載されていますが、そのVoiceOver機能へ対応しました。今後も障がい者の方々、健常者の方々を含めて多くのユーザーの意見を聞きながら、アクセシビリティ対応の強化を検討していきます。

菊島:障がい者の方々からは「自分たちに役立つ地図情報を、自分たちで作りたい」というお話をよく聞きます。障がいによって、設備に求められる機能、必要な情報は異なります。だからこそ、障がい者の方々同士が協力しあってユニバーサル設備の情報を共有していくことに意味があります。こういった取り組みは、どのような方にとっても住みやすい街づくりにもつながっていくと考えています。

※ 記載されている会社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

※ 所属部署、役割等については、取材当時のものです。



NTTコムウェア株式会社

URL : <http://www.nttcom.co.jp/>

WEB掲載 : 2016.11